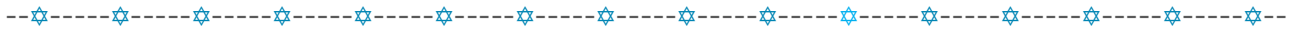


#406 『キリスト地上再臨の直前に起こること—子羊の婚礼とは』

～黙示録 19 章前半～

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



皆さん、こんばんは。本日は今にも雨が降りそうな中、来ていただきまして感謝しております。皆さんは、日本を代表する心理学者、もう亡くなられたんですけど、河合隼雄（かわい はやお/1928-2007）という方をご存知でしょうか。臨床心理の草分けの方ですよ。この方の本『日本人とアイデンティティ』の中に『断夢（だんむ）症状』という章があって、こんなことが書いてありました。

朝起きた瞬間に全部忘れているけれど、どんな人でも一晩に4-5回夢を見る。夢を見ている時の睡眠をレム睡眠、夢を見ていない時の睡眠をノンレム睡眠と言います。レムというのは眼球運動という言葉の頭文字なんですね。瞼の内側で眼球がグリグリ動いている時は夢を見ているそうです。

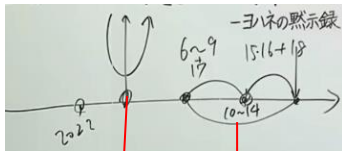
ある実験心理学者が2人の人を使って、一晩に同じ回数起こす、という実験をしました。但し、1人は夢を見ている最中に起こす。もう一人はそうでない時に起こす。どうなったでしょうか。そうでない時に起こされた人は、寝て起こされて、またすぐ寝て。特に何の問題もない。夢を中断された人は段々不安定になってイライラし、寝ている時間は同じなのに極度の睡眠不足状態。何日間か続けると、最終的には幻覚を見だしたんです。

河合さんはそのことから、「イライラしている人・不安定な人は、睡眠中の夢だけではなく、実際に生きている人生の中で夢を中断された人ではないか。また若者ですぐにキレてしまう人は、夢を見させてもらえないような青春時代を送っているのではないか。もし自分が持っている夢を次から次に全部潰されて行ったら、どんな人でもイライラ、やけっぱち、不安定になるのは当然ではないか。安定した人生のためには、夢を見られる人生を生きること、何があっても潰れないような夢をいくつか握っておくことだ。」

私は本当にそうだなと思いました。同時に、今日見る黙示録の箇所を思い出したんです。黙示録はAD96年・97年くらいに、イエスの弟子ヨハネが神から啓示を受けて書いた終末預言。これから世界がどうなっていくかという終末預言です。

どこで書いたかという、島流しにされたパドモス島。弾圧の中でこの黙示録を見るんですね。黙示録はある意味 夢、というよりキリストによるビジョン。今は困難続きだけど必ずこうなる、という歴史の終着点。自分の未来には必ず素晴らしいことが待ち受けているという希望。この希望がしっかりあると、今苦しくても立ち上がって行くことができると思うんですね。

黙示録は全部で22章ありますが、いよいよ19章。もうあと4章。皆さん、お疲れさまでした。なんとかついて来ていただいて感謝しております。前から見ると、今日初めてという顔が何人かいらっしゃるので、復習を兼ねて、聖書が語っている終末預言について初めに超ざっくり紹介します。



携挙 艱難時代

時間の座標軸。左から右に未来に向かっていて考えてください。

現在 2022 年 5 月。ある時キリストが空中まで来られて、クリスチャンたちを皆、天に引き上げてしまいます。だからある時から、この集会にいらしても誰もいない、そんな時が来ます。

これが携挙 (けいきよ) / Rapture。

それからしばらくすると反キリストが現れます。彼がイスラエルと 7 年契約を結ぶことによって、人類史上最も深刻で過酷な時代が始まります。あまりにも苦しい時代なので艱難 (かんなん) 時代と呼んでいて、前半 3 年半と後半 3 年半に分けることができます。

前半 3 年半は黙示録 6 章~9 章と 17 章。基本的に時系列で書いてあります。

そして、中間点で大事件が起こりますが、その内容は 10 章~14 章。

後半 3 年半は 15 章・16 章・18 章。

今日見る 19 章は前半と後半に分けることができますね。

前半は、キリストが地上再臨される直前に天で行われることについて。

次回 後半は、世界最終戦争とキリストの地上再臨について。これが艱難時代のクライマックスです。

今日は、キリストが地上再臨される直前に天で起こる出来事について、ご一緒に考えたいと思います。

その内容をひと言で言うと、4 つのハレルヤが出て来るんです。天でハレルヤコーラスが歌われる。

4 回「ハレルヤ！」と言っているのですが、それぞれ意味がちょっと違うんですね。。

そこで今日は、何を理由に天で「ハレルヤ！」と言っているのか説明させていただきます。

ハレルヤはヘブライ語で、ハレルは“ほめたたえよ”。ヤは“神”。ハレルヤは“神をほめたたえよ”。

J-POP にも歌詞にハレルヤとか出て来るの、時々ありますよ。

“主をほめよ”。なんでここで出てくんねん？ 文脈全然関係なしに、なんとなく縁起のいい言葉として使われているようですが、元々ヘブライ語です。

1 つ目のハレルヤ

黙示録 19 章

1 その後 (のち) 、私は、大群衆の大きな声のようなものが、天でこう言うのを聞いた。

「ハレルヤ。救いと栄光と力は私たちの神のもの。

2 神のさばきは真実で正しいからである。

神は、淫行で地を腐敗させた大淫婦をさばき、ご自分のしもべたちの血の報復を彼女にされた。」

前回の 18 章とは別の幻が出て来ますね。その後というのは前回とは話題を変えています。違う幻。

それは天での幻で、ハレルヤという賛美があった。言っているのは大群衆。大群衆とは誰のことか。

ご自分のしもべたちの血の報復を彼女にされた。とあるように、艱難時代に殉教する人たち。

先ほどの図を見ていただくと、艱難時代は 7 年間全部が艱難なのですが、特に苦しみを受けるのはこの時代にイエスを救い主と信じる人たち。特に後半 3 年半は、イエスを信じようが信じまいが、ユダヤ人は皆ここで苦しみを受けて行きます。

苦しみを与える主体者は前半と後半で違うんですね。
前半では世界統一宗教が世界をコントロールします。後半では反キリスト帝国が世界を支配する。

2 神は、淫行で地を腐敗させた大淫婦をさばき、ご自分のしもべたちの血の報復を彼女にされた。

淫行で地を腐敗させた大淫婦は 17 章に出て来た組織、世界統一宗教のことです。

今世界中に色んな宗教がありますが、やがて 1 つに統合されます。

大淫婦・大バビロンと呼ばれる世界統一宗教。

キリスト教会史の歴史を見ても、クリスチャンを一番迫害し、殉教させて行ったのは教会です。
教会がクリスチャンを迫害するんですか？—そうですよ。迫害理由は？—聖書を翻訳したから。

聖書を初めて英語に翻訳したウィクリフ（1324-1384）の場合、「英語に翻訳するなんて赦せん！」
ということで、既に死んでいたのに墓が暴かれ、もう一度火で焼かれ、灰になって川にばら撒かれました。イギリス人が母国語で聖書を読めるようにしたのは何よりも重い罪だと。
だれが裁いたのか。だれが呪ったのか。教会です。

キリスト教会の看板を掲げているからといって、本物のクリスチャンかというのは別です。
日本にもたくさんのキリスト教会がありますが、建物が立派でも中身が大事。
本物の福音を伝えているかどうかは全く別問題です。
手前味噌になりますが、ここは大丈夫です。安心していらしてください。

ところで、天国がどんなところかは、この言葉で少し伺うことができるのではないかと思います。
殉教した人たちが、「ハレルヤ。救いと栄光と力は私たちの神のもの」と、3 つのことで神をほめた
たえているんですね。

今週 5 月 24 日、いくつかの新聞で、ある人物がインタビューを受けていました。
土師 守（はせ まもる）さん、神戸のお医者さんです。25 年前の 1997 年、この方の次男で小学 6 年
生の土師 淳（はせ じゅん）君が、酒鬼薔薇聖斗（さかきばら せいと）と名乗る少年 A に生首を落と
されて、中学校の校門の前に晒し者にされたんです。
もう 1 人女の子が殺されていました。全部で 5 人、重傷を負ったり殺されたりした。
だから、神戸連続児童殺傷事件と言われました。

25 年経ったということは、犯人の少年 A は今年 40 歳になります。
酒鬼薔薇聖斗（と呼んでおきます）の姿を、土師さんは 1 回も見たことがありません。
当時の少年法によって、大それた犯罪を犯した未成年の彼の一切はカバーされたんです。
警察の調書を見ることもできず、裁判で傍聴することも、もちろん面会も許されず。
だから、自分の次男を殺めた犯人の姿を一度も見たことがない。その肉声を一度も聞いたことがない。
でも、非常に人格者の方ですねえ。

私は、土師淳君については 1 つ慰めがあります。私の友人が集っていた教会の日曜学校に、淳君と
お兄ちゃんが通ってたんですね。だから聖書の福音を聞いていた。
しかし、酷い目に遭ってしまったわけですね。

少年 A は 5 年ほど医療刑務所にいて、もう治ったからということで解放。罰が無いんですよ。罰を受けてない。それから毎年、淳君の命日になると手紙が届くようになりました。その内容 めちゃくちゃ短かったのが年々少しずつ長くなって、とうとう 2018 年だったか、手紙に心境・成育歴・性的サディストになった経緯などを、ワープロ打ち 37 枚びっしり書いた。

土師さんは「実は、それを読むのは非常に辛い作業だった。しかし、まともな人にならなくて欲しいと思って、更生のためにその作業に取り組んでいた」と言います。そして「遂に心打ち明けてくれた…。もういいんだ。これで終わっていいんだ」と思ったんですが、その 1 か月後にびっくりするような事件が起こったんです。

酒鬼薔薇聖斗が『絶歌（ぜっか）』というタイトルで本を出したんですよ。太田出版から。あの手紙の内容は本のダイジェストだったんです。本の継ぎはぎだったんですね。著者だからいくらでも美化して書けるし、印税は全部彼に入る。「それだけはやめてくれ」とあんなに止めていたのに、結局そうか…。

犯罪の被害者になった後、土師守さんは、日本の法律には罪を犯した者に対する罰は書いてあるけど、被害者に対する救済が無いことをつくづく感じるんですね。罪を犯した者は刑務所に入って罰を受ける。しかし、被害を受けている人はいったいどうなるのか。それで、日本の犯罪被害者たちの救済活動をしている団体“明日（あす）の会”に入りました。

例えば、殺人未遂の被害者になったある女性、犯人は刑務所に入っているけど、彼女自身は身体に深刻な後遺症が残ったために、OL でしたが働くことができなくなった。ローンが残っている。それどころか、毎月毎月高額の治療費が掛かる。払えない。病院から言われたそうです。「刑務所に行って、犯人からお金を出してもらってください。」

罪に対する罰はあるが、それによってダメージを受けている人たちはズタズタになっている。それで、賠償能力のない加害者に代わって、国がいくらかでも補助できるようにということで、その法律が遂に通るのですが、それだけでは全然足りない。

法的には、犯罪→裁判→有罪宣告→罰→一件落着ですが、被害者の人生はそれからずっと続いているので、トラウマで残ったり、人生が狂わされたことの悔しさがあったり。不条理な被害を受けた人であればあるほど、立ち直ることが難しい。それを力説しておられました。

ところで、不条理な被害ということを考えて時、艱難時代の信仰者たちほど不条理な殺され方、不条理な被害者はないと思いますよ。彼らは悪を行ったんじゃないんです。艱難時代の中で、時代に対して最も良い貢献をして来た人たちです。キリストの福音を伝えた。また、伝える人たちを支えた。しかし、それが理由で拷問や弾圧・迫害を受け、おびたしい数の人たちが殺された。良いことをして、罰を受けて殺された。大きなトラウマが残るに違いない。でもここを見ると、そうじゃない。歌が出ている。ハレルヤ。救いと栄光と力は私たちの神のもの。

1 つ目のハレルヤ ① 救い

救いは解放という意味です。ここでは罪の罰からの解放というよりも、非常に不条理な被害を受けた人間が過去から解放され、トラウマが完全に癒され、全く健康な人格を取り戻して歌えるように

なるという救い。

天国ってどんなところでしょう？ 地上で傷つけられて、どんな精神科の治療を受けても立ち直れなかった人たちが、思わず「ハレルヤ」と歌が出て来るような人格に回復している世界。それが天国です。早く行きたいもんですね。

1つ目のハレルヤ ②栄光

裁きにおいて現された神の**栄光**とは、どんな栄光でしょう？

この世の裁判、例えばアメリカでは、明らかに酷い犯罪を犯しているのに、めちゃくちゃ有能な弁護士が付くことによって、罰が限りなく軽くなったり、無罪を勝ち取ったり、人種差別的に小さな犯罪が大きい判決になったり、大きな犯罪が軽く見られたり。

裁判はやっているけど、判決で逆にガッカリするみたいなこともあり得ますね。

しかし、神は正しい裁判を断行することによって、神の道徳的栄光が現れるのです。

私は数年前にアメリカ西海岸の3つの州を1か月ほど回りました。特にカリフォルニアには日本人がたくさんいて、色んな方が入れ替わり立ち替わり、お話何うことができとても感謝だったんですが、その中に、アメリカで弁護士として活躍している日本人クリスチャンの方がいらしたんです。

日本でなんぼ弁護士の資格取ってても、アメリカ行ったらまた別に取らないと駄目。

どれくらい難しいかという、小室圭（こむろ けい）さんがムチャクチャ難しいくらい難しい。

どうなるんですかねえ、あの小室圭さんは。そんなことはどうでもいいんです、今は。

アメリカは州によって法律が違うので大変だと思いますが、カリフォルニアの弁護士。

一緒にお食事をしながら、前から聞きたい聞きたいと思っていたことを質問したんですよ。

アメリカの裁判では しばしば司法取引をやるんです。被告人が犯罪を軽くしてもらうために、司法取引で、自分が知っている情報を検察側に提供し、その見返りとして無罪や、刑が非常に軽くなったりする。自分も悪事を働いた一味なのに、先にそういう人たちのことをチクる。

というか密告することによって、自分の罰を軽くしてもらう。

つまり、悪事を行って、裏切り者で、罰を受けない。これ、どう思います？

そうでもしないと、大物の真のフィクサー・陰のボスを逮捕できないから、これは致し方ないものだ。

分かりますよ。分かりますよ、理論では。でも、なんか釈然としないというか、「やったもん勝ちかよ」という気持ち、起こりませんか？ 私はそういう気持ちが拭えない。

ので、「これって、どうなんですかね。なんでアメリカ人は そんなんで納得するんですかね。ようそんなん受け入れてますね」と質問した時、彼はこう言ってくれたんです。

「多分アメリカの人たちは、地上の裁判が裁判の全てではないと思っているからでしょう。

人間がジャッジを下す裁判とは別に、死後に一人ひとりが神の前に立って最後の審判を受ける時が来る。司法取引で何とかなるのは地上裁判の時だけです。その人が本当に悔い改めない限り、神が方を付けてくださるということは何となくみんな信じているので、だからこそ一見不合理な、でも大物を捕まえるためには致し方ない、というこのシステムを受け入れているのではないのでしょうか。」

これを聞いた時、初めて胸のつかえが下りて行って、やっぱり絶対者なる神の審判を前提にしない

と、社会というのはちゃんと機能しないことを改めて教えていただいた気がしました。地上の審判の中には栄光が現されるというよりも、「なんでそんな判決になんねん！」という不名誉な判決がある。でも神の審判はそうじゃない。栄光はその審判を通して、神の正しさ・道徳的な高潔さが現されるんです。

1つ目のハレルヤ ③カ

どんなに強大な組織であっても、神にはその裁きをやり切る力があるということです。艱難時代の前半3年半は世界統一宗教が全世界を統治しますが、世界統一宗教を潰すのは誰か。反キリストなんですよ。反キリスト帝国。

世界統一宗教は彼女と表現されていて、“彼女を裸にする”と書いてあります。おそらく意味はこうでしょう。世界統一宗教の中にはうじゃうじゃお金があると思います。スキャンダルもいっぱいあるでしょう。これを全部情報公開する。これが裸にするということ。この世の闇を闇が暴いてくれるんです。闇の力が闇を暴いて主権交代。

後半3年半は、あの大きな世界統一宗教をも屈服させた反キリスト帝国が大暴れする。しかし、この反キリスト帝国も、地上再臨のキリストによって倒されるんです。1つ目のハレルヤは世界統一宗教の滅亡。

2つ目のハレルヤ

3 もう一度、彼ら（殉教者たち）は言った。

「ハレルヤ。彼女が焼かれる煙は、世々限りなく立ち上る。」

ここの彼女是世界統一宗教ではなく、後半3年半、全世界を統治する世界のセンターとなる都の大バビロンです。

18:2 彼は力強い声で叫んだ。「倒れた。大バビロンは倒れた。それは、悪霊の住みか、あらゆる汚（けが）れた霊の巣窟、あらゆる汚れた鳥の巣窟、あらゆる汚れた憎むべき獣の巣窟となった。」

この大バビロンが後半3年半、全世界の中心首都になります。今世界政治の中心はどこですか？ ワシントンと言う人も、北京と言う人もいるでしょう。経済の中心はロンドンだと言う人もいるかもしれません。しかし、政治と経済の中心は北京でもワシントンでもニューヨークでもなく、バビロンになる時が来ると聖書は語るんです。このバビロンは最後どうなるのか。

18:8 これらのことのため、一日のうちに、様々な災害、死病と悲しみと飢えが彼女を襲います。そして、彼女は火で焼き尽くされます。彼女をさばく神である主は、力ある方なのです。

大バビロンが火で焼かれ煙が立ち上りますが、**19:3 彼女が焼かれる煙は、世々限りなく立ち上る。**千年王国の間、ずっと燃え続けているんですよ。千年王国の間、見せしめというか、悪に対する裁きはバビロンを見たら分かるということが起こるんです。

ところで、バビロンは文字通りのバビロン、イラクにある地名です。

今イラクのバビロンは遺跡として残っているけど、大きな町としては機能してない。ただ聖書預言では、やがて全世界の政治経済の中心は今のバビロンになる。これって信じられますか？

皆さん、都会ってどんなイメージですか？ 梅田？ 梅田って…、梅田も都会やけど～。僕は昨年 虎ノ門のスタジオに行きましたが、やっぱりあそこは日本の中心やと思いましたね。虎ノ門の隣は霞が関ですよ。霞が関の隣は皇居ですよ。千代田区 1 丁目 1 番地、皇居ですよ。日本の中心やなと思いましたけど、ニューヨークの大きさ…。ワシントンには行ったことないです。

北京市、どれくらいの大きさか分かりますか？ 僕が初めて中国に行った時は 1 人だったんです。ホテルも全部自分で予約して。縮尺が書いてない地図だけど、天安門広場まですぐ行けると思ったら全然。北京市って四国より大きいんですよ。北京市の中を万里の長城の一部が走ってる。

バビロンはもっと大きくなるでしょうね。

あんなイラクが世界の中心、大都市になる?! 世界の政治経済の中心になる?!

今はイメージできないかもしれませんが、この数年私が感じていることは“世界は一瞬で変わる”ということです。

コロナウイルスの前と後で、なんと世界が変わったことか。リモートワークが増えて。これ始まるまで、皆さんのお席は密になってました。今ちょっと空間できてるでしょ。ライフスタイルがコロナの前と後で変わったんじゃないですか？

世界は少しずつ少しずつ変わるんじゃないんですよ。一瞬で変わる。

今年 2 月 24 日 ウクライナ戦争の前と後で、ヨーロッパの安全保障の力関係が激変しているじゃないですか。ウクライナ戦争の前、ウクライナ大統領の名前がゼレンスキーって、何人が知ってましたか？ 今や世界で一番脚光を浴びている政治家じゃないですか。

ついこの間までコメディアン俳優ですよ。でも完全に男前を上げた。世界は一瞬で変わります。

現状で「イラクのバグダッドではなくバビロン…？」 聖書にはそう書いてある。イスラエルは一日で生まれましたね。聖書はそう語っているんです。

3 ハレルヤ。彼女が焼かれる煙は、世々限りなく立ち上る。

19 章前半の段階で、バビロンは焼かれて燃えています。但し、反キリストは無傷です。

留守にしている間に、神の裁きがバビロンに下ったから。なぜ留守に？ どこに行っていたのか？ ハルマゲドンに軍隊を集めてたんです。しかし彼が U ターンしても、自分が造り上げた都はどこにもないという状況。このような神の裁きを見て、彼らは感謝しました。

3 つ目のハレルヤ

4 すると、二十四人の長老たちと四つの生き物はひれ伏して、御座に着いておられる神を礼拝して言った。「アーメン。ハレルヤ。」

これは今まで出て来た殉教者たちとは別です。

二十四人の長老たちはクリスチャンたち/艱難時代の前に天に引き上げられた 携挙された教会。

その根拠は既にお話したので、バックナンバーをご覧くださいと思います。
四つの生き物はセラフィムです。御使いの中で非常に位の高い御使いたち。

ここでは、今までの大群衆の礼拝とは違って実に簡潔。「アーメン。ハレルヤ。」
ある方が言ってました。「クリスチャンは晴れてもアーメン。雨でもハレルヤ。」なんのこっちゃ。
アーメンは「そのとおり！」という意味です。“真実”という意味もあります。
殉教者たちが献げる賛美の言葉に対して完全同意。完全一致。
そして、「ハレルヤ/主をほめたたえよ」と言っているんですね。
ここでは、この段階までに神がしてくださったことへの感謝から生まれて来た賛美です。

4つ目のハレルヤ

6 また私は、大群衆の声のような、大水のとどろきのような、激しい雷鳴のようなものがこう言うのを聞いた。

“~のような” というのが3つ出て来ますね。

- 大群衆の声のような；既に1節に出て来たように殉教者たちでしょう。
- 大水のとどろきのような、●激しい雷鳴のような；黙示録ではしばしば、御使いたちの宣言や宣告の時に使われています。ここでは、天にいる全ての旧約聖書時代の信仰者たち・艱難時代の信仰者たちだけではなく天使たちも含めて、全住民が賛美している。何を賛美しているのか。

6 「ハレルヤ。私たちの神である主、全能者が王となられた。

今 王となられたんじゃないです。昔から王です。王でない時代は一瞬たりともありません。
王となられたことが地上のだれにでも分かる時が来た、という意味でしょう。

7 私たちは喜び楽しみ、神をほめたたえよう。子羊の婚礼の時が来て、花嫁は用意ができたのだから。

これが地上再臨の直前に起こる、天での最大のイベントです。
子羊の婚礼の時が来た。子羊はキリストのことです。子羊はしばしば犠牲・いけにえになります。

それに対して、反キリストは何と呼ばれましたか？ 獣です。獣はどんな人間も調教することができない動物。だれも彼を躰けたりコントロールすることはできない。悪魔的な人格と力を持っている者。

神であられ人となられたイエスは子羊。その子羊が結婚式を迎える。
花嫁は用意ができたのだから。子羊イエス・キリストの花嫁とはいったい誰でしょうか。
それが、携拳された教会/クリスチャンたちなんですね。

あさって、結婚式があるんですよ。この集会の若者が難波のホテルで式を挙げるんです。
おとつい、花婿になる彼に色々インタビューしました。「高原さん、20分以内でお願いします。」
「分かってるって。」「時間延びたら…」「分かってるって。なんか面白いエピソードないか？」
その時彼が何回も言ったのは「あ～、キンチョーするわー！ もうめちゃくちゃ緊張するわ！」

ワタシ、全然緊張しないんですよ。どう言えば来会してくださる方に聖書のメッセージ伝わるかな、ということで頭がいっぱいで、緊張はないんです。彼は「緊張するわ、緊張するわ」と言ってましたが、これは本人だからです。本人でないことはこんなにも冷静でいられるのかと思いましたが、当日までその興奮というか、「倒れるなよ！」というような気持ちがしましたねえ。

キリストは**子羊の婚礼**の時を本当に大喜びで、感激をもって待ち望んでくださっているのだ、ということの間接的に見せられた気がして、とっても嬉しかったです。

ところで、**子羊の婚礼の時**が来て、**花嫁は用意ができたのだから**。

これはユダヤ式の結婚式を下敷きに語られているので、ユダヤ人の伝統的結婚式について少し紹介します。4段階あります。

①婚約。

双方の親が自分の息子・娘を結婚させようと許婚（いいなづけ）に決めるということが、昔のユダヤ人社会にありました。ある場合はまだ赤ちゃんの時に、幼くて物心ついてない時に、「君と僕は親友だから、君の娘を僕の息子と結婚させよう」ということで、本人の意思ではなく父親の意思で決めるんです。それは、花婿の父親が花嫁の父親に花嫁料を支払うことによって、口約束でなく正式な婚約として成立します。結納金。

②結婚の準備が整ったら花婿が花嫁を迎えに行き、準備した新居に導き入れます。花嫁は今まで住んでいた所を後にして、花婿が準備した家に移動します。

③結婚式。婚礼。

ごくわずかな身内だけで行います。この式の前に清めの儀式があり、花嫁を清めます。清められた花嫁はウエディング衣装を身にまといまします。そして、少数の身内だけで式が行われます。

④披露宴。レセプション。

ある場合には7日間続いたと言われます。疲れると思いますがねえ。7日も。毎日楽しいことがあり過ぎる現代人は「疲れるわ」となるかもしれませんが、昔は滅多に楽しみがないから、ここぞとばかりに食べられる時というか楽しめる時ですよ。

これを下敷きに**子羊の婚礼**が行われます。

①神はご自分のひとり子イエス・キリストの花嫁として、クリスチャンたち/教会を建てられました。その花嫁料は、父なる神様ご自身が、イエス・キリストという代価を払って私たちを買い取ってくださった。これを信じるのが婚約です。クリスチャンは今、キリストと婚約している段階です。

②花婿は新居の準備ができたなら花嫁を迎えに行きます。花嫁は今まで住んでいた所を離れて新居に向かいます。新居は天です。これが携挙です。

③そして、艱難時代の最後 地上再臨の直前に、天で**婚礼**の式が行われる。

④9 御使いは私に、「子羊の婚宴に招かれている者たちは幸いだ、と書き記しなさい」

先ほどは**婚礼**でした。ここでは**婚宴**。結婚の宴。レセプション。これは地上で行われるんですね。

千年王国の初めに神の子羊の盛大な結婚式が行われる。
そこに招かれるのは千年王国に入れる人たちだけです。だから、**幸いだ。**

**10 私は御使いの足もとにひれ伏して、礼拝しようとした。すると、御使いは私に言った。
「いけません。私はあなたや、イエスの証しを堅く保っている、あなたの兄弟たちと同じしもべです。
神を礼拝しなさい。イエスの証しは預言の霊なのです。」**

なんとヨハネは、神ではない御使いを拝もうとしてしまうんですね。ヨハネともあろう方が。
多分ね、嬉しいニュースを言ってくれて、あまりにも嬉しくて「んん～、もう拝まして～」とやらか
してしまいそうになった時に、御使いは「**いけません！**」と止めました。

世界中のカルト宗教の開祖は、拝もうとすると「もっと！」それがカルトであることの証拠です。
凄くビッグな福音を持って来た御使いは、礼拝されそうになった時「いけません！ダメです！」
この世界に色んな、特にキリスト教関係のカルト宗教があって、開祖はみな 自分のことをメシアと
か救い主とか言って礼拝を求めますね。それがそもそも悪魔的なこと。
悪魔の手先となっている証拠だと思います。

神を礼拝しなさい。イエスの証しは預言の霊なのです。
聖書の預言は全てイエスを証しするためのものであり、それは聖霊によるものだ。

さて、この4つのハレルヤを題材にして、オラトリオ（宗教音楽・神を礼拝するための音楽）が作
曲されています。ヘンデルの『メサイア』。
メサイアの第2部の最後は ♪ハ～レルヤ♪ のハレルヤコーラスですね。
メサイアの歌詞はほとんど聖書です。ハレルヤコーラスの歌詞は**黙示録 19章前半**から作られました。

ヘンデル（1685/2月-1759）はバッハ（1685/3月-1750）と同じ年に、1か月違いくらいで生まれま
した。近所の町で。才能が同時に出来たみたいなきもちですね。
お父さんは医師で、息子を弁護士にしたいと思ったけど、ものすごく音楽の才能があって、お父さ
んの反対を押し切ってオペラ作曲家になります。やがてドイツを出てイタリアに行き、そこで大成
してイギリスに行き、そこで超売れっ子になってイギリス人に帰化しました。

色んなオペラを作っていくのですが、この人ワーカーホリックだったんです。
仕事が楽しくて楽しくて。初めはそこからだったんですけど、一旦仕事モードに入るとずーっと作
曲してる。睡眠時間はほとんど4時間切ってる。もうフラフラになりながら曲作って。
フラフラになりながら、なんで曲作んねんと思うんですけどね。

睡魔に勝つためにコーヒー・ビール・煙草が手離せない。大食漢。歩いたら疲れるということで、ち
よっと離れた所に行くだけでも馬車に乗った。それでブワーツ太って、52歳の時に脳溢血になっ
たんです。倒れるべくして倒れるという生活。作曲中に倒れて。
倒れた時、彼が作ったオペラはウケてなかったんです。

当時ジョン・ゲイという作曲家が引っ張りだこでした。彼のオペラは政治風刺オペラ。
時の政治家を揶揄するというものの方がウケたんです。

ヘンデルはやれどもやれども全然売れないし、企業経営者でもあったんですが、借金を山のように抱えて、そこへもってきて脳溢血で倒れてしまった。

それで、イギリス諦めて生まれ故郷のドイツに帰ろうかと考え、リハビリで散歩して家に着いた時郵送物が届いてたんです。友人のチャールズ・ジェネンズが書いた 新作のオラトリオの台本でした。表紙は『ザ・メサイア』。メシア。救い主。

冒頭の言葉は「**慰めよ。慰めよ。わたしの民を。**」(イザヤ書 40 章 1 節)

メサイアは全部で 51 くらいの曲で出来てて、1 部 2 部 3 部とあります。

キリストの誕生から公生涯・十字架・墓の葬り・復活・昇天、全部書いてあるんですが、歌詞はほとんど旧約聖書。つまり、旧約預言はイエス・キリストにおいて成就した、ということが描かれている内容なんですね。

その冒頭、「神こそ我が慰め主。歴史の支配者。悩める者、障害を身に負っている者たちの救い主。キリストは我らの苦しみを負って十字架についたが、3 日目に死を克服してよみがえられた。この世は間もなくキリストのものになる。」

ヘンデルは障害を負っている時だったので、まるで神が自分に語ってくださったように感じ、感激し感動して一気にこの作品に取り掛かりました。24 日間で書いてしまうんです。

そして、いよいよロンドンで初公演。時のイギリス国王ジョージ 2 世がお客さんで居たのですが、ハレルヤコーラスで思わず起立するんですね。

当時のイギリスでは、全知全能の神をほめたたえる時は立ち上がる習慣があったそうですが、国王ジョージ 2 世が起立したのを見て、一般人がみな立ち上がってスタンディングオーベーション。

これで成功かと思いきや、上手く行かなかった。なんで駄目だったと思いますか？

キリストのことを初めから終わりまで歌っているこのオラトリオを、世俗の芝居やオペラを上演する会場でやったことで非難されたんです。時の宗教家たちから。

もう宗教の人って、しょうもないことで、枝葉のことで文句付ける。

「神をたたえる音楽を、恋愛ものや政治風刺ものなど世俗の猥雑なオペラを上演している劇場で上演した。神に対する畏れが無いぞ！」彼らの意見を恐れて、皆が評価できなかったんです。

それで、渾身の力を込めたメサイアが良い評判を取ることができなかったのですが、それから何年も経って、ヘンデルを絶賛し傾倒する作曲家が出て来るんですね。ベートーベン (1770-1827) です。

「私は音楽をヘンデルに学んだ」と言ってます。

その頃には、批判していた人たちはもう死に絶えてますから、ようやく脚光を浴びて。

今やクリスマスといえばハレルヤコーラス、年末といえば第九、と決まってるじゃないですか。

中身の歌詞、だれも読んだことがない。実は、黙示録の**地上再臨の直前に起こることを**歌っている。それがハレルヤコーラス。

それで僕は思いましたね。良いものは、必ずしも 現れた時すぐに評価を受けるわけじゃない。

でも良いものは、必ずいつか評価される時が来ます。

どんなに沈めても浮力があるからまた浮き上って来て、それが明らかにされた時と、正当な評価を受けるまでにはタイムラグがあるけれど、やがて来たるべき時に必ず評価を受ける。

これはキリストの福音も同じなんです。

イエスがユダヤ人の目の前に現れて証ししていた時、彼らはそれを受け入れませんでした。

しかし、ユダヤ人は艱難時代を通して悔い改めて、イエス・キリストを受け入れるようになります。

最後に1つお話しをして終わらしましょう。

5 また、御座から声が出て、こう言った。

「神のすべてのしもべたちよ、神を恐れる者たちよ、小さい者も大きい者も 私たちの神を賛美せよ。」

最後に、聖書のメッセージに触れて「神は偉大な方で、イエスは私の救い主だ」と思った方は、ぜひ神に祈ってみる、神を賛美してみる、ということをお勧めしたいと思うんです。

歌は折口信夫(おりぐちしのぶ)によると、“訴える”という言葉が縮まって“うった”、“歌”になった。メロディーに乗っかると、メロディー無しに棒読みで言うよりも人の心に訴える力を持つ、と言うんですね。そして歌う者も、歌によって不思議な力が湧いて来る。

脳には右脳と左脳があって、言語中枢は左脳にあります。

だから、左脳にダメージがあると言葉が出て来なくなったり、失語症ですよ。

ところが、失語症の方で言葉が出て来なくても、時に、歌を歌うことができることがあるんです。

メロディー無しに「喋ってみて」言われても喋られへん人が、歌うことによって言葉が出て来ることもあるんですね。

有名な話ですが、田中角栄(たなかかくえい)は幼い時 大変な吃音(きつおん)、差別用語で良くないのですが どもりでした。どうやって克服したか。

学芸会で「一番長いセリフの役をくれ。」先生は「おまえ、絶対詰まるからやめとけ」と言うのですが、彼には勝算がありました。BGM。音楽を流したんです。浪花節ですけどね。

そのメロディーに乗せて歌うようにセリフを言うたら、淀みなく言えたというね。

不思議ですねえ。メロディーに乗せると言えるようになる。

音楽は神様が人間に与えた、1つの特殊なギフトではないかなと思いますね。

日本人指揮者の小澤征爾(おざわ せいじ/1935-)さん。4人兄弟で、お父さんは軍国主義の人でした。

板垣征四郎(いたがき せいしろう)の征、石原莞爾(いしはら かんじ)の爾で征爾。

板垣征四郎と関東軍参謀の…、言ってる意味分かりますかね? ごっつい名前じゃないですか。

ところが、お母さんはさくらさん。「わたくし、生まれも育ちも…」、その“さくら”じゃないですよ。さくらさん(1908-2002)。クリスチャンになってます。

讚美歌の楽譜は4つのメロディー、4パートに分かれることができます。

さくらさんは息子4人いるので、小さい時から讚美歌を四重唱で歌うように仕込んだんですね。

それで音楽の楽しさを知った。征爾さんは、音楽の目覚めは讚美歌だったと言ってます。

さくら母さんは聖路加病院で亡くなりました。

その時の院長は日野原重明（ひのはら しげあき）さん、105歳まで現役の医師だった人です。

最期の時に息子たちが集まったけど、特に言うことがないんですね。

お母さんはもう意識がない。こういう時、娘やったら「お母さん！」とか言うてくれるかも分からへんけど、男ってね、肝心な時に なんかもう じーっと見て。

日野原さんが「何か言葉を掛けてあげたら…」 「でももう、なんて言ったらいいか…」 「だったら、讃美歌聞かせてあげたらどうですか？ 病院の音楽室に讃美歌のカセットテープがあるから。」

「そうだ！」 指揮者やのに、そんなこと分からへんのかと。

すぐに音楽室に行って、讃美歌集を持って来て、かけて。そしたら思い出した。

小さい時 お母さんから口移しで教えてもらった讃美歌を聞きながら、「ああ、こんなこともあった。あんなこともあった。お母さん、こんなことしてくれた。あんなことしてくれた。」

そしてね、テープを聞かせるんじゃなくて、耳元で優しく「主われを愛す 主は強ければ われ弱くとも 恐れはあらし」って歌い出したら、さくら母さんがぼろぼろ泣き出して。ああ、届いてる…。

昔 カール・バルトという人がハーバード大学で宗教講和の講演を全部終えた時、「結局、聖書で一番大事なことって何ですか」と聞かれたんです。

彼は「主われを愛す 主は強ければ われ弱くとも 恐れはあらし。わが主イエス わが主イエス わが主イエス われを愛す」と言った、と言われています。

一番大事なことは、私が強くなることではなく、弱いままの私を強いキリストが愛してくださった。キリストは私を愛して命まで捨ててくださった。

神はこの世界を造ってくださった。それゆえ神を賛美します。神はイエスをこの世界に遣わしてくださった。それゆえ神を賛美します。神は私の救いを完成してくださった。それゆえ神を賛美します。このように神に祈ってみたらどうでしょう。神を賛美してみたらいかがでしょう。

良い歌詞の讃美歌は私たちを引っ張り上げてくれますね。不信仰の沼から。

聖書のメッセージを聞いて、ここに真実があると思われたなら、外から眺めるだけでなく、イエスの中に飛び込んでみたらいかがでしょうか。

皆さんがぜひキリストと出会われることをお勧めして終えたいと思います。

^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^

* 使用した聖書は『聖書 新改訳 2017』

* 動画はYouTubeで「[HCA 東住吉キリスト集会](#)」

* ラジオ番組「[聖書と福音](#)」（約15分）もぜひどうぞ。YouTubeもあります。

* YouTube「[ごうちゃんねる](#)」もぜひ見てください。